

育成を目指す資質・能力

身近な自然を観察する活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。

ICT活用のポイント

プレゼンテーションソフトの共有機能を用いることで、自分が作成している際にも、友達が書いていることや写真に印をつけたところなどから新たに気付いたり、気付きの質を高めたりすることができる。

事例の概要

校庭で春をさがす

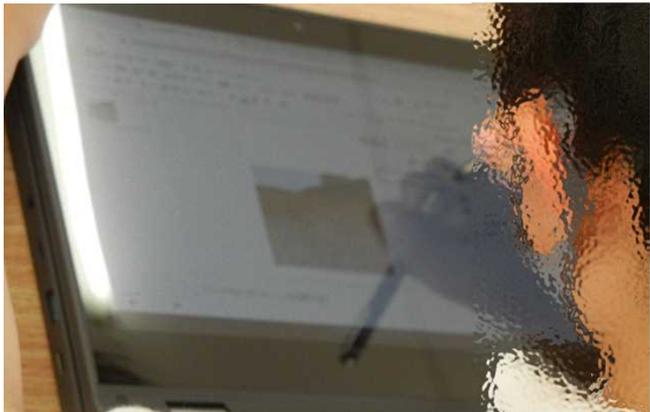
見つけた春を記録し、
交流する

学区で春をさがす

見つけた春を記録し、
交流する

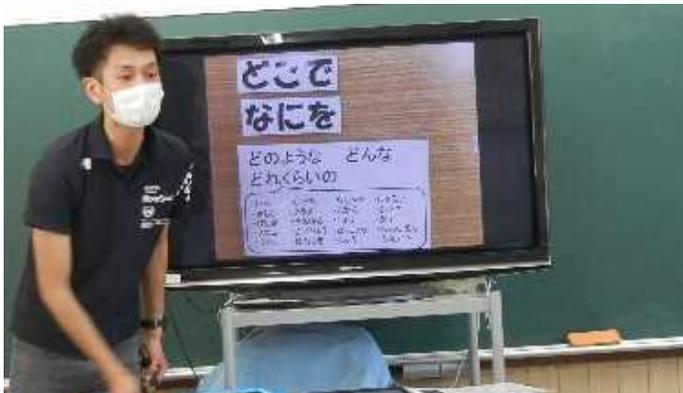
- 校庭や校内（学区）の「春」を見つけ、ICT端末で静止画を撮影する。
- プレゼンテーションソフトで作成したワークシートを学習支援ソフトで受け取る。
- 受け取ったワークシートの決められたシートに、自分が撮影した写真を貼り付け、「どこで」「何を見つけたか」「どんな様子だったか」等、見つけたことや気付いたことを手書き入力で記入する。
- 大型提示装置に映して、発表する。

【事例におけるICT活用の場面①】



ワークシートに写真を貼り付け、気付いたことを記入する。

【事例におけるICT活用の場面②】



ワークシートの記入時、児童に意識付けたい項目を提示する。

【学習過程と事例におけるICT活用の場面との関係】

・気付いたことを記入する活動の際、何を書いてよいか分からない児童もいる。場面②のように教師が提示するとともに、プレゼンテーションソフトの共有機能を活用することで、作業中でも友達のワークシートの様子が分かり、新たに気付いたり気付きの質が高まったりする。

【ICTを効果的に活用するポイント

(ICT活用の工夫や留意事項等)】

- ・ワークシートは、共有機能が活用できるように、同じファイルに児童数分のシートを作成し、児童に割り当てる。
- ・カメラ機能で撮影した写真は、教室に戻ってからクラウド上に入れる必要がある。
- ・ICTを使うことが目的とならないように、児童の思いを聞き、紙に手書きしたい児童には紙のワークシートを渡せるように準備しておく。

【児童や教師にとってのICT活用のメリット】

- ・考えを共有、交流することが容易であり、新たなことに気付いたり、気付きの質を高めたりすることができる。
- ・絵が苦手な児童にとって、写真を使用できることで安心して取り組むことにつながる。
- ・字の間違いや文の加筆等があっても修正しやすい。